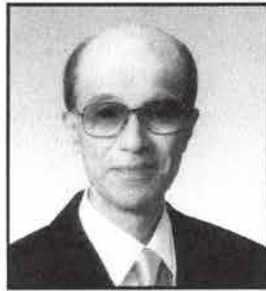


名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 荒木 透 先生

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員・元会長、元科学技術庁金属材料技術研究所所長、元東京大学工学部教授、元株式会社神戸製鋼所顧問、工学博士荒木 透先生は、平成17年4月12日、ご逝去されました。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は、昭和15年東京帝国大学工学部冶金学科卒業後、20年まで呉海軍工廠（製鋼部、同実験部、海軍技術研究所）に勤務、21年～37年大阪特殊製鋼株式会社にて吹田工場長、取締役技術部長、37年～57年科学技術庁金属材料技術研究所にて製造冶金研究部長、鉄鋼材料研究部長などを歴任し、50年～57年は同所の所長、その間、昭和40年～50年東大工学部冶金学科教授を兼務、昭和57年～平成6年（株）神戸製鋼所顧問、平成6年より金属材料技術研究所顧問、平成13～15年独立行政法人物質・材料研究機構顧問、平成15年からは同機構名誉顧問を務められました。

先生は、大学卒業以来一貫して高級鉄鋼材料の製造技術の改善ならびに新材料の開発につながる研究に従事し、技術の発展ならびに学術的基盤に貢献する研究を行い多くの業績を残しました。昭和19年より戦後にかけて、特殊鋼の作業標準の理論的検討、高周波焼入鋼・低合金鋼の焼入性調整、ボロン処理鋼など当時の先導研究を本会で発表しました。独創的な発想により溶鋼への鉛の溶解度を究見した高品質鉛快削鋼の製造技術の確立は、昭和30年代からの自動車用特殊鋼の急伸に伴う快削鋼実用化に大きな役割を果たしています。その後もこの研究に関連して鋼中金属ないし非金属介在物に関する多くの基礎的ならびに開発に導く研究を行い、鋼中介在物の挙動、切削挙動、その他の力学的性質等への影響を明らかにする一方、新しい快削鋼を開発しています。昭和40年代以降は鋼の微視強化機構および組織とそれらに付随する延・韌性に関する研究をとくに精力的に行い、鉄鋼基礎共同研究会「強度と韌性部会」を主宰するとともに国内におけるこの分野の研究水準を高め、各種高張力鋼、超強力鋼の開発研究基盤を育てました。研究発表論文には、低合金鋼の組織と強度、マルエージ型超強力鋼、オースフオーミング、加工熱処理強靱化、熱処理、相変態、変態誘起塑性、強化組織と疲労挙動、遅れ破壊挙動などの研究が含まれ、各種の微視的強化機構を有する組織が延・韌性、疲労破壊などと如何なる関連を持つかという鉄鋼新材料の開発にきわめて重要な分野に適應する多くの知見を与えました。また、これらの成果を多くの国際会議で発表して研究の発展を先導し、平成6年に低炭素鋼の微視組織に関する国際会議を主宰するなどして、国際的な学術交流、学術発展にも貢献しております。

先生は本会の理事を5期歴任し、昭和53年～昭和55年には会長をつとめ、昭和56年には名誉会員に推挙され、昭和57年には西山賞を昭和60年には製鉄功労賞、平成12年には褒賞を受賞されました。また、昭和63年には勲二等瑞宝章を受章されました。

先生が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績に感謝し、会員一同心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成17年5月

日本鉄鋼協会 会長 奥村直樹